

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防		路河川名等	(砂)滝の沢	
事業毎の通番	9	市町村名	小谷村	箇所名(ふりがな)	梨平(なしだいら)
事業目的	滝の沢は、平成26年11月22日に発生した長野県北部の地震(神城断層地震)で震度6弱を観測した小谷村と震度5強を観測した白馬村の境を流下する溪流であり、土砂災害防止法に基づく特別警戒区域内をJR大糸線が通過している。平成27年1月の融雪による土石流発生時には、既設の堰堤が土石流を一部捕捉したため、JR大糸線及び養豚場は被災を免れたが、既設堰堤が破損しており、また上流域には不安定土砂が残っているため、豪雨時に土石流が発生するおそれが高い。そのため、砂防堰堤1基を設置し、公共施設等の保全を図る。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法	
関連する事業、計画等					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	JR大糸線、村道				
着手年度	平成28年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	1.5	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			300,000	150,000 13,500 15,000
年度事業内容(主な工種)	調査、設計 1式			10,000	5,000 4,500 500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	JR大糸線、村道を保全			
	間接的効果(定量的・定性的)				
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】0戸 【保全公共施設】JR大糸線、村道 【要配慮者利用施設】なし 【避難場所】なし	評価	C	
	重要性	【災害履歴】平成7年7月、平成27年1月土石流発生 【交通影響】JR大糸線 【位置付け】なし	評価	A	
	効率性	【費用対効果】B/C=1.5 【早期効果発現】事業期間:5年間 【工法等比較検討】砂防計画策定時に配置、形式等を検討 【総合調整】関係機関(治山・JR)との調整済	評価	A	
	緊急性	【地形地質】第三紀層、地すべり地形なし 【流域植生】放置林 【平均渓床勾配・土砂整備率】勾配:約30° 整備率:0% 【危険地区】土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり	評価	A	
	計画熟度	【情報共有】関係村、JRと情報の共有化が図られている 【地域要望】地元要望あり 【合意形成】事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】現時点で住民関与は低い	評価	C	
	部意見	本溪流の特別警戒区域内をJR大糸線が通過しており、早急に土砂災害対策を行う必要がある。	行政改革課意見	流域内には不安定土砂が堆積している。保全対象にはJR大糸線、村道があることから、重要性が高く、緊急性も認められる。	評価結果
				○	B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

至 糸魚川
JR大糸線
堰堤工(不透透型)
H=10m L=60m
姫川
国道148号
土流基準点
流域面積 A=0.19km2
至 白馬

全景写真
全周計測砂防堰堤
至 糸魚川
JR大糸線
至 白馬
JA養豚場

事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

至糸魚川
JR大糸線

渓流状況

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	滝の沢では、平成7年7月と平成27年1月に土石流が発生しており、平成27年1月に発生した土石流では既設堰堤が破損し、現在もそのままの状態となっている。また、上流域には不安定土砂が厚く堆積しており、豪雨時に土石流が発生するおそれがある。このため、砂防事業により砂防堰堤を設置し、JR等公共施設の保全を図る必要がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年1月の土石流発生を踏まえ、小谷村より砂防事業の要望を受けている。
③事業説明等の経緯	砂防計画策定後、関係者と調整を行っていく予定である。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	JR西日本と調整を図りながら、砂防設備の位置、規模等について検討を行う予定である。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	現況を考慮して、工事に伴う地形改変を極力少なくする計画にする。
⑥地域活性化への影響と配慮	砂防事業により、地域住民の安全・安心をさらに確保し、災害のない地域づくりを推進することで地域の活性化を図る。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 43' 50"
	東経:E 137° 53' 15"